平成29年（2017）
阿づまの光
10月号・Oktobro

教主さまお作　鉄絵柿文茶盌

【大谷土】

題字出口直日

通巻第583号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 猪子 恒
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

素盞嗚の神の尊のつくらしし
三十一文字は言霊の本よ

出口王仁三郎聖師

〝東京大本歌祭〟明年開催決定

祭務課主幹　椎野 恭三

大本東京本部は明年、開設50周年、新東京本部建て替え10周年の佳節を迎えます。これを記念して、平成30年10月8日（月・祝日）、東京本部能舞台で、東京大本歌祭を執行させていただくこととなりました。

東京本部は昭和29年、三代教主さまのご指示で上野池之端の当地に東京本苑が設立され、同43年、首都圏の大事な拠点として東京本部設置となったものであり、多くの先人の方々のご苦労、ご足跡を経て、現在があります。私どもは先人の遺徳を偲ばせていただくとともに、未来に向けて勇気を振り起し、みろく神業の新展開に邁進させていただきたいと思う次第です。

その後、節目節目には歌祭が執行され、首都圏では小田原市中央公民館（昭和26年）、水道橋宝生能楽堂（昭和30年）を含めると、次回で五度目となります。特に前回の新東京本部建て替えを記念した東京大本歌祭（平成20年）では、宗教関係者、文化人らとともに中東四カ国の大使や代表が参加され、歌祭終了間際、イスラエル大使とパレスチナ代表のお二人が感激のあまり、ハグをされるというサプライズがありました。また来賓としてご出席の明石康元国連事務次長が「大本は二つの基本的な原則において一貫したものを持っている。それは一国を離れた真の国際平和に対する確信であり、自然と環境を大事にする心」という趣旨のお言葉を下さいました。

教主さまは本年の瑞生大祭で「ここ最近のただならぬ世界情勢を見ておりますと、聖師さまが先の世を見越して、国々の八重垣（やえがき）を取り払い、主の大神さまを中心に、世界の万民が大和合して、一つになり、みろくの世の型を出すこの歌祭を、世界を平和に導く神事として、私たち人類のためにお残しになられたものではないかと思うのでございます」と、歌祭についてお示し下さいました。

節分人型大祓にならぶ神事の歌祭。国内外から寄せられる献詠歌の善言美詞と、舞姫、朗詠者、八雲琴、弓太鼓の奏者が一体となって、世界を祓いに祓い、清めに清めていただきたい。

明年のその時が、今から楽しみであり、身の引き締まる思いであります。

今を大切に生きる

～幸せをみつける法則～

全てのものには天命があり、人の使命も天から与えられています。過去の積み重ねが今であり、今の積み重ねの先に未来があります。天命とは今を大切に生きること。出口王仁三郎聖師が説いた「天命を知って人事を尽くす」とはどういった生き方かを学びます。

人生を豊かに送る生活の実践

大本には四大主義（清潔主義・楽天主義・進展主義・統一主義）という教えがあります。主義といえば、民主主義や共産主義など、さまざまな主義があり、憲法や条例のようなさまざまなルールが定められています。しかしその主義やルールというものは、時代や環境が変われば当然変化します。

大本が説く四大主義は、時代や環境、地域、人種の違いを超えて、万物すべてに至るまで普遍的に共通するものです。

本日は、その中から清潔主義、楽天主義について、お話しさせていただきたいと思います。

例えば植物も清潔主義を実践しています。それは二酸化炭素を吸収し、光合成を行って細胞の活性化を図っています。それは植物の清潔主義の実践であり、それが天から与えられた天命を楽しむ楽天主義につながっています。

私たちも同様に、四大主義を実践することによって、人生を豊かに送ることができるのです。

罪と穢れ、心の掃除

私たちは、日常生活の中で掃除をしたりお風呂に入って体を洗ったりすれば、心身ともにすっきりします。これは意識すれば誰にでもできる清潔主義ですが、意識してもなかなか拭えないのが目に見えない部分、つまり心の清潔主義です。

私たちが知らず知らずに抱いてしまう恨みや妬み、憎しみなどの想念の清潔が大事で、それを怠ると、心の中に大きな影響を及ぼします。

大本ではこれを「罪・穢れ」と表現します。罪というのは、犯罪などの言動による罪ではなく、妬み、恨み、憎しみなどの目に見えない内部の罪ことを指します。罪悪感を積み重ねることを「つみ」と言い、あるいは人として優れた能力を持ちながらそれを十分に発揮せず、包み隠していることも「つみ」になると言われています。また「穢れ」とは、気が枯れた状態のことで、消極的な気持ちなどを示します。

〝犯罪〟となれば警察に捕まりますが、妬み、恨み、憎しみなどをいくら心の中に抱いたとしても捕まることはありません。しかし、心の罪や穢れは、確実に自分自身の魂を曇らせていきます。

大本では、死後、人の魂は〝あの世〟の世界「霊界」へ復活すると教えられています。魂の世界に戻ったとき、心の内はごまかすことはできず、はっきりと姿に現れ、隠すことができません。死後、天国に行くためにも、心の罪・穢れを常に清めるように努めることが大切なことなのです。

大本の教祖・出口王仁三郎聖師は、道歌で次のように説いています。

身の垢（あか）は湯水石鹸であらへども
洗ひがたきは心なりけり
塵ほどの罪過（あやま）ちも重なれば
身をほろぼすの種となるらむ

例えば1年間、使わない部屋だからといって、全く掃除をしなかったならば、やはり埃（ほこり）は溜まっていきます。そこで生活するとなれば大掃除をしなければならない。毎日掃除をしていれば箒（ほうき）と雑巾1枚で済むところですが、大掃除ならマスクをして、ほっかむりをして、洗剤やバケツや替えの雑巾を何枚も準備しなければなりません。

これを自分の心に置き換えてみると分かりやすいと思います。〝これくらいなら良いだろう〟という思いの積み重ねが、知らず知らずのうちに心の塵となり、身を滅ぼす種となってしまうのです。

私事で恐縮ですが、自分は日課として1日に2行程度の日誌を付けるようにしています。それは業務日誌ではなくて自分が感じた嬉しかったことを書くようにしています。それを私は「宣（の）り直し日誌」と呼んでいます。せめて1つでも良かったことを書くと、気持ちの優れない日でも、翌日には案外クリアできることがあります。

天命を楽しむ

清潔主義が実践できますと、気分が楽になって楽天的な気持ちになり、楽天主義に進むことができます。楽天主義とは天命を楽しむと言いましたが、一般に天命、天職と言うと、自分に合った職業のことをイメージします。ところが、大本の天命とは、少し違います。大本の三代教主補・出口日出麿尊師は、楽天主義について、次のように示しています。

「楽天と申しますのは、これは天命を楽しむという意味であります。天命、これを『性（せい）』といいます。つまり惟神（かんながら）の、それぞれ与えられた天職使命、それが『性』であり、天命である。命はおいいつけであり、すなわちいのちであります。すべてのものに、人間とか動物ばかりでなしに、植物にも鉱物にも性があり、天のおいいつけがあり、

～21世紀・生きがい講座～

鈴木 林太郎（すずき りんたろう）（大本本部総務課主事）

そのもの独得のいきのみち、すなわち、いのちがあるのでありまして、一切がその性にしたがって天地の化育に参じておれば、惟神にほがらかで楽しいのであります」

（「信仰叢話」より）

「惟神」とは、「神のみ心のままに」という意味があります。

動物は動物としての天命を全うしています。自分の命を守るために餌を求め、子孫を残していきます。植物も同じです。与えられた環境の中で精いっぱい天命を全うしています。陽の当たらないところに根を生やしたからといって、決してその境遇を恨んだり他の植物をうらやましく思ったりはしません。

ところが、人間は自由意志があるために、他と比較してみたり他人をうらやんだり、天命を素直に受け入れることができません。

「天を恨まず、運命に耐え」

これから紹介するのは、宮城県気仙沼市の階上（はしかみ）中学校の話です。この中学校では卒業式を迎える直前に東日本大震災が起こり、そのため、3月22日に延期されました。この中学校では防災対策に力を入れていたそうですが、残念ながら犠牲になった生徒もいらっしゃいました。その卒業式で発表された男子生徒の答辞の一部です。

「階上（はしかみ）中学といえば『防災教育』といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし自然の猛威の前には人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切な物を容赦なく奪っていきました。

天が与えた試練というにはむご過ぎるものでした。辛くて、悔しくてたまりません。

時計の針は14時46分を指したままです。でも時は確実に流れています。

生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く正しくたくましく生きて行かなければなりません。命の重さを知るには大き過ぎる代償でした。

しかし、苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です」

この模様は、当時のニュースでも紹介されました。私は最後の個所の「苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え」というところを聞いた時、胸の詰まる思いがいたしました。

楽天主義というのは、天命をどう受け入れるかということであり、大変厳しい一面を持っています。

当時15歳のこの男子生徒が、彼自身が被災者でありながら「天を恨まず、運命に耐え」と表現をしたことに、相当な勇気と覚悟を感じました。

20年前、私は大本本部の「梅松塾」というところに入塾して、3年間、大本の教義や日本の伝統文化などを勉強させていただきました。

入塾した当初、職員の方から教えていただいた忘れられない出来事がございます。ある日、職員室に呼ばれて、職員の方からこう話されました。

「ここに一本の包丁があるとします。その包丁は大変錆びている。水を流しながら錆びついた包丁を研いでいくと、濁った研ぎ汁が出てきます。この研ぎ石は梅松塾、水は神さまの光、熱と愛。そして、この錆びついた包丁は、あなた自身です」

私はこの言葉にハッとしました。梅松塾に入ってからの生活は本当に新鮮なことばかりでしたが、日々の生活の中で、いつの間にか言葉の使い方や振る舞いなどに、自分の醜い部分が出てしまい、自己嫌悪に陥っていました。そうした私の心の状態を職員の方はすべてお見通しで、錆びた包丁に例えてお話しくださったのです。

今を生きる～刹那最善主義～

出口日出麿尊師は、「苦しむための苦しみではなく、悟るための苦しみなのだ」と教えています。辛く、苦しい、醜い自分が出てくるのも、磨かれている間はどうしても経なければならない過程であり、それも大きな意味でご神徳なのだと教わりました。

一般に「人事を尽くして天命を待つ」と言いますが、大本では「天命を知って人事を尽くす」と言います。人事を尽くしたから、あとは神さまにお任せしますというのは、どこか僭越な感じがいたします。まず天命というものを覚悟して、その上で、過去を悔やまず、未来を案ぜず、瞬間瞬間のベストを尽くす「刹那最善主義」ということが、大切ではないかと思います。

取り越しの苦労もなさず過ぎこしの
苦労も思はず刹那を進む
今といふいま善き心よき言葉
よき行ひをはげむこそ善き
今日もよし明日もまたよし何事も
神の心にまかす身なれば

（「大本の道」より）

掲載文は、平成29年5月17日に航空会館（港区新橋）で開催した「21世紀・生きがい講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭

東光苑月次祭（長寿感謝祭・交通安全祈願）ならびに秋季合同慰霊祭は、9月10日、午前10時30分から、斎主・橋本伸作東京宣教センター次長のもと執行され、342人が参拝した。

祭員は関東教区各主会青松会員が、少年祭員は鈴木愛徠さん、鈴木魁士さんがご奉仕。伶人は二絃の会関東支部、伊都能売神論拝読は東京主会青松会の飯田幸一郎さん、添釜は茨城主会が担当した。

祭典後、鈴木穎一大本本部長があいさつ。まず教主さまのご近況として、長生殿での神集祭最終日のご先達の様子を紹介し「全員が一つになって、とても感激した」と述べ、併せて聖地の近況を紹介した。また「本部長に就任して、40日、あらためて後継者育成の重要性を感じる。大本の素晴らしい教えを、次の世代に引き継いでいくのは皆さん一人ひとりの使命。皆さんとともに考えていきたい」として、身近な家族子弟への信仰の継承を訴えた。

続いて、総局推薦として第20期大本総代に就任した福島主会長の嶋貫光喜氏があいさつに立ち「飯田俊明総代とともに、皆さまのお力をいただきながら、重責を全うしたい」と語った。

引き続き、加藤眞三・慶應義塾大学看護医療学部教授の講話『市民のための患者学～新しい時代の医療を迎えるために～』があり、「慢性病が増えて、これから患者が主となる時代になる。皆が協働して正しい知識を持ち、多様な選択肢にも自分で決めていく、こんな医療の大変革に対応していくのが患者学」と述べた。

最後に、今年度、節目の年を迎えられた方をお祝いする「長寿祝賀式典」が行われ、列席者17人（写真）を紹介。渡辺弘子直心会茨城連合会長から祝辞と記念品の授与があり、列席者を代表して、千葉主会の木村扶美子さんが記念品を受取り、神奈川主会の岩澤兵衛さんが答辞を述べた。

なお、本年の関東教区の長寿該当者は、白寿3人、米寿21人、喜寿50人。

当日列席者＝白寿／渡辺智子（山梨）、米寿／神谷當江（神奈川）、池中保夫・千川純一（東京本部直属）、喜寿／黒澤洋一（茨城）、本村健・岩澤兵衛・岩澤妙子・大渡邦洋（神奈川）、小林セイ子・武昌子・髙谷晴生（東京）、木村扶美子・山口秀雄・鎌倉紫濃子（千葉）、野村博（栃木）、二川和夫（東京本部直属）

●異動あいさつ

特派宣伝使　小藪（こやぶ） 資史（もとふみ）

このたび近畿第1教区に異動となりました。3年間、関東教区の皆さまには本当にお世話になりまして、感謝の気持ちでいっぱいです。

皆さまの温かいお言葉を胸に、次の任地でも大神さまのみ心のままに、精いっぱいご奉仕させていただければと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

●着任あいさつ

特派宣伝使　宮原（みやはら） 雅博（まさひろ）

このたび関東教区特派宣伝使を拝命いたしました、宮原雅博と申します。「一心が神に通じぬ筈はない」（日出麿先生）。一心に神さま、教主さまのご教導のもと頑張らせていただきます。皆さまどうぞよろしくお願い申し上げます。

東光苑道場講座

東光苑道場講座は9月16日から18日の3日間、東京宣教センターを会場に開催され、44人が受講した。期間中、天恩郷で受ける全講座を受講。食作法も行った。受講者からは「充実した3日間だった」「み教えの実践の大切さを再認識した」などの声が寄せられた。受講者は2年以内に、梅松苑での残りの講座を受講する。

21世紀・生きがい講座

第175回「21世紀・生きがい講座」は、9月20日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、小藪資史・特派宣伝使が「ポテンシャルの引き出し方～自己魂を練る」と題して講話した。参加者は22人（内、一般1人）。

講師は、ポテンシャルとは潜在的な能力と説明、「私たちは一霊四魂という魂を頂いている」と述べ、直霊と荒魂、奇魂、幸魂、和魂の働きをそれぞれ紹介。「祈りを中心として、四魂を磨いてゆくことが、自己の魂の潜在能力、ポテンシャルを高めることになる」と語った。

東光苑祭典・行事予定

10月

4日（水）午後6時
東光苑秋をめでる夕べ

8日（日）午前10時30分
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

18日（水）午後7時
霊界物語全国一斉拝読会（第50回）

18日（水）午後7時～8時30分
21世紀・生きがい講座（新橋・航空会館）
講題　正しい食、農のあり方の実践
～農道まっしぐら～
講師　小林 善直（専業農家）

21日（土）午前10時30分執行
家庭平安祈願祭（第26回）

11月

5日（日）午前10時30分執行
開教125年 大本開祖大祭遥拝祭

12日（日）午前10時30分執行
東光苑秋季大祭
新穀感謝祭・七五三詣り

15日（水）午後7時～8時30分
21世紀・生きがい講座（新橋・航空会館）
講題　日本人の誇りと使命
講師　出口眞人（愛善信光会理事長）

25日（土）・26日（日）
東光苑葬祭研修会

大本東京本部ホームページ
URL http://oomoto-tokyo.com